

NPO法人日本ファンドレイジング協会
2010年度 事業・活動計画

<1> 2010年度事業・活動計画策定にあたっての基本的考え方

日本ファンドレイジング協会は、日本社会における寄付文化の革新を目指し、2009年2月に発足した。2010年度は、日本ファンドレイジング協会にとって、本格的に稼働後の2年度目にあたり、初年度のセミナー・研究会や、ファンドレイジング日本2010の成功、寄付者の権利宣言の採択や会員獲得などの実績を踏まえて、更に寄付市場の形成に向けた新しい取り組みをスタートさせていく。

2010年度の事業のポイント

- ・ Giving Japan の創刊号の発行 (Giving Japan 発行基金パートナー募集)
- ・ ファンドレイザーの倫理規定制定
- ・ フィランソロピー教育モデルプログラムの立ち上げ
- ・ ファンドレイジングネットの移設
- ・ 認定ファンドレイザーの資格制度設計案の検討
- ・ セミナー・研究会・ファンドレイジング大会の継続開催

<2> 事業計画

1. 研修事業

以下の2つの研修事業を行うことでファンドレイジング担当者の情報共有、スキルの向上、成功体験の共有を図り、日本におけるNPOのファンドレイジング高度化を目指す。

1) 「ファンドレイジングセミナー2010」の開催

8月から、定員150～200名規模で、計6回開催予定。

今年度のテーマは、「支援者とのリレーション・マネジメント」。今年度は、支援者との関係づくりの基本となる「リレーション・マネジメント」に焦点をあてて、全6回の連続セミナーを開催する。

第1回 社会をデザインする (8月18日)

講師：池田正昭 (NPO法人アースデーマネーアソシエーション副理事長)

「ソーシャルデザイン」という言葉の生みの親で、雑誌、地域通貨、打ち水、エコプラザ等の様々な道具を使って社会変革に挑戦してきた池田氏が、「社会をデザインするというコトは一体何なのか？」を語る全6回セミナーの基調講演。

第2回 パブリック・スピーキング (9月9日)

講師：蔭山洋介（株式会社コムニス代表取締役）

「パブリックスピーキング」とは「人前での話し方」のこと。ファンドレイジングに際して、相手に「何を話すか」だけではなく、「どう話すか」について、日本におけるパブリック・スピーキングの第一人者の蔭山氏がレクチャーする。

第3回 ソーシャルメディアで「縁」を広げる（9月29日）

講師：久米信行（NPO法人CANPANセンター理事）

鎌倉幸子（シャンティ国際ボランティア会国内事業課課長）

CANAPANのブログ大賞審査委員長も務める久米氏が、社会貢献の現場でのソーシャルメディアの可能性とリアルな支援者獲得の取り組みについて語る。また、実際にソーシャルメディアをフルに活用してファンドレイジングに取り組んでいる鎌倉氏が自らの事例を公開。両氏のトークセッションでは、支援者との「縁」を広げるソーシャルメディアの活用法を考える。

第4回 幸せの循環をつくるDRM（ドナー・リレーションシップ・マネジメント）（10月21日）

講師：吉田憲司（株式会社ファンドレックス取締役）

既存の、あるいは潜在的支援者の属性、嗜好、行動様式などを踏まえ、支援者との関係構築に力点を置く支援者拡大の考え方「DRM（Donor Relationship Management、寄付者関係性管理）」と支援者データベースを用いたDRMの実践方法を学ぶ。

第5回 「ジャスト・ギビング」する人たち（11月11日）

講師：佐藤大吾（一般社団法人ジャスト・ギビング・ジャパン 業務執行理事）

「Just Giving Japan」は、英国発の誰でも主催者になってチャリティ・プロジェクトを実施できる仕組みを提供する寄付サイトです。様々な手法で人と社会との結びつきを強めて寄付社会の発展を目指す佐藤氏が、日本の寄付の現状とその課題について語る。

第6回 ファンドレイジングが社会を変える（11月26日）

講師：鶴尾雅隆（NPO法人日本ファンドレイジング協会常務理事）

寄付文化の革新を目指す日本ファンドレイジング協会の鶴尾が、ファンドレイジングの先にあるフィランソロピー社会の実現に向けて、「今、私たちにできること」について考える。

2) 主に会員を対象とした、ファンドレイジングの事例を深く研究する「ファンドレイジング研究会」の開催。5月から、定員20-30名で、前年度に引き続いて年間10回の開催予定。

ファンドレイジング研究会 2010年度年間スケジュール

第8回 5月20日（木）「米国ファンドレイジング大会報告」

報告者：鶴尾雅隆、徳永洋子（日本ファンドレイジング協会）

第9回 6月28日(月)「NPOのマーケティング」

講師：長浜洋二氏(富士通、ブログ「飛耳長目」主宰)

第10回 7月21日(水)「チラシ道場」

講師：吉田映理子氏(ハンズオン!埼玉)

第11回 8月19日(木)「キャンペーン型ファンドレイジング」

講師：玉田雅己氏(パイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター)

第12回 9月16日(木)「大口寄付」

講師：Marta M. Lejkowski

(Global Philanthropic, シニアコンサルタント兼ディレクター)

通訳：伊藤美歩(日本ファンドレイジング協会 理事)

第13回 10月6日(水)「対人コミュニケーション」

講師：黒木桂桜さん(ASTRO-Lビジネスキャリア研究所)

はしなが ゆたかさん(有限会社コーロク代表取締役社長)

第14回 11月予定 「大学の寄付集め」

第15回 12月17日(金)「Donor Relationship Management」

講師：吉田憲司氏(吉田経営研究所、Salesforce .com 認定コンサルタント)

第16回 1月7日(金)「クリスマスキャンペーン徹底比較」

講師：鶴尾雅隆(日本ファンドレイジング協会)

第17回 3月4日(金)「FRJ2011からの学びと気づき共有会」

講師：鶴尾雅隆(日本ファンドレイジング協会)

3) 地方における研修

- ・大阪で「ファンドレイジング研究会 in 大阪」を開催予定
- ・昨年度同様、依頼があれば、地方への講師派遣を行う。
- ・講師派遣で地方に職員が行ったときに、現地会員などと協力した「出前カフェ」を開催し、地方会員との交流、新規会員獲得を図る。

4) 認定ファンドレイザーの資格制度設計案の検討

- ・海外事例の調査
- ・他の資格制度の調査

2. 出版事業

1) ファンドレイジング・ジャーナル発行（年4回）

- ・ ファンドレイジングスキルの向上、会員の取り組みの紹介、寄付に関心のある社会的リーダーの紹介などを通じた関心の醸成を目的としてジャーナルを発行する。
- ・ 1000部発行・季刊（6月、9月、12月、3月）

2) 「Giving Japan」（寄付白書）の発行

- ・ 日本の寄付市場の可視化を通じて、寄付への関心を惹起することを目的として、10月を目途に、日本初の寄付白書「Giving Japan」を発行する。
- ・ 毎年の継続的な発行のために、「Giving Japan 基金」を創設。発行パートナーを募集する。

スケジュール

- 4月 「Giving Japan 基金」の募集の開始
- 5月 寄付推計調査分析、ルート別寄付分析、各章コンテンツ骨子確定
- 6月 各章コンテンツ案完成
- 8月 編集校正
- 10月 発行（英文版も作成。年度内発行を目指す。）

3. 普及啓発事業

1) 寄付市場のルールづくりのために、ファンドレイジング行動基準を策定する。

- ・ ファンドレイジング行動基準策定委員会の立ち上げ（7月）
- ・ ファンドレイジング行動基準の採択（翌年2月）

2) フィランソロピー教育モデル事業

子どもたちが楽しみながら寄付体験できるフィランソロピー教育ゲームの開発などを通じて、寄付者教育を進めるうえでのモデル事業を立ち上げる。

スケジュール

- 7月 検討委員会を立ち上げ、モデル事業の検討を開始
- 9月 モデル事業の内容確定
- 12月 モデル校での試行実施、地方でのセミナーなど

3) その他

各事業を通じて、寄付文化の醸成にむけた政策提言を行っていく。

4. 「ファンドレイジング日本 2011」開催

2011年2月5日、6日の2日間、東京の日本財団ビルにて、第二回「ファンドレイジング日本2011」を開催する。

第二回においては、一般公募枠でのプレゼンテーターの確保、第一回大会参加者による、「その後」セッションの新設など、会員意見を踏まえて内容の改善を図る。

ファンドレイジング大賞の広報の強化。

5. オンラインコミュニティ「ファンドレイジングネット」の運営 <http://frn.jfra.jp/>

- ・2010年4月 ファンドレイジングネットの運営がシーズから移管された。
- ・2010年9月 ファンドレイジングネット・リニューアルオープンを予定。

6. 海外ネットワーク強化

世界各国のファンドレイジング協会との連携やつながりを強化する

- ・4月 Association of Fundraising Professionals 年次大会への参加
- ・7月 International Summit on Fundraising への参加

<3> 組織基盤の強化

1. 事務局体制

事務局長の下、2名が常勤職員として勤務。新年度1名増員を予定。個々の事業の必要に応じて、契約スタッフを雇用していく予定。あわせて広くボランティアを募り、多くの人を巻き込みながら、事業遂行を行っていく。

2. 各種委員会など

会員などの参加協力を得て、多くの人を巻き込みながら各事業の遂行を行っていく。2010年度も、Giving Japan 発行研究会、フィランソロピー教育検討会、ファンドレイザー倫理規定策定委員会など設置予定

3. 会員拡大

初年度会員の継続に注力。2010年度会員数目標は、総数250名（入金ベース）。

日本ファンドレイジング協会

2010年度 予算計画

科 目			予 算 額	
	大科目	中科目		
■収入の部■				
	会費収入			
		運営会員	1,680,000	
		賛同会員	2,160,000	
	小計			3,840,000
	事業収入			
		ファンドレイジング大会参加費（会 員）	800,000	
		（非会員）	1,500,000	
		研究会・講演会参加費	2,100,000	
		ジャーナル(季刊誌)販売	960,000	
		ジャーナル広告	800,000	
		白書販売	400,000	
	小計			6,560,000
	寄付金収入			
		一般寄付	1,000,000	
		寄付白書基金	5,000,000	
	小計			6,000,000
	助成金・委託費			
		日本財団	32,020,000	32,020,000
	小計			
	受取利息収入		5,000	5,000
	当期収入合計			48,425,000
	任意団体時残余財産			5,959,170
	収入合計			54,384,170

■支出の部■				
	事業支出			
	1. 他セクターとの関係強化			
	ファンドレイジング大会			
		人件費	1,600,000	
		補助作業者給与(アルバイト)	300,000	
		会議費	150,000	
		諸謝金	600,000	

		印刷製本費	600,000	
		旅費交通費	1,400,000	
		通信運搬費	100,000	
		雑費	100,000	
	小計			4,850,000
	2. 研修(セミナーと研究会)			
		人件費	1,600,000	
		通信運搬費	350,000	
		諸謝金	500,000	
		印刷製本費	500,000	
		旅費交通費	200,000	
		会議費	240,000	
		雑費	50,000	
	小計			3,440,000
	3. 出版			
	1)ジャーナル			
		人件費	1,600,000	
		補助作業者給与	1,200,000	
		印刷製本費	3,200,000	
		通信運搬費	200,000	
		旅費交通費	320,000	
		諸謝金	1,000,000	
		雑費	100,000	
	小計			7,620,000
	2) 寄付白書			
		人件費	1,600,000	
		補助作業者給与	1,000,000	
		印刷製本費	3,000,000	
		委託費	2,000,000	
		諸謝金	2,000,000	
		雑費	100,000	
	小計			9,700,000
	4. フィランソピー教育			
	調査・研究・モデル事業構築	人件費	1,600,000	
		補助作業者給与	2,000,000	
		印刷製本費	800,000	
		委託費	300,000	

		会議費	200,000	
		諸謝金	600,000	
		旅費交通費	480,000	
		雑費	100,000	
	小計			6,080,000
	5. その他			
	ファンドレイザー行動基準策 定			
		会議費	200,000	
		諸謝金	500,000	
		印刷製本費	300,000	
		旅費交通費	240,000	
		通信運搬費	200,000	
		雑費	50,000	
	小計			1,490,000
	ファンドレイジングネット運営	補助作業員給与	960,000	
		会議費	500,000	
		諸謝金	1,900,000	
		印刷製本費	300,000	
		通信運搬費	960,000	
		業務委託費	800,000	
		雑費	100,000	
	小計			5,520,000
	事業支出合計			38,700,000
	一般管理費			
		補助作業員給与	2,640,000	
		法定福利厚生費	1,200,000	
		福利厚生費	100,000	
		通勤費	600,000	
		通信運搬費	1,200,000	
		地代家賃	2,520,000	
		水道・光熱費	360,000	
		広告宣伝費	400,000	
		研修費	120,000	
		旅費交通費	200,000	
		備品消耗品	500,000	
		資料代	300,000	

		雑費	100,000	
一般管理費支出合計				10,240,000
支出合計				48,940,000
			当期収支差額	5,444,170
			次期繰越収支差額	5,444,170